

# 高齢者の平穏で幸福な生活について

ティック ヌー フェ トゥー  
Thich Nu Hue Tu ※

## 要約

生活様式の変化に伴って家族の関係性が希薄になり、多くの高齢者が孤独を感じていることが慈善活動を通じてわかってきた。現在ベトナム全国に存在する高齢者施設では、身寄りのない高齢者を支援しているが、家族がいても介護する人がいない高齢者は多く存在している。しかし、こうした社会のニーズには対応し切れておらず、新たな施設が必要とされている。複数の入居者が介護者とともに生活し、家族も訪問したり一緒に出かけることのできる、新しい形の施設を、社会と家族で作る、実践していきたいと考えている。

キーワード：高齢者施設 社会の発展 家族

20世紀、人間は、科学、経済、社会など各分野で目覚ましい発展をした。しかし、その一方で、高齢者が多くの問題を抱えるようにもなった。

人間は、社会参加すればするほど、様々な関係性を維持するため、より多くの時間を費やす必要が出てくる。以前、我々ベトナム人は、祖父母、両親、子どもという3世代が一つの家庭で生活を送っていた。家族の成員たちは、ともに助け合い、特に祖父母や両親の介護をする義務を果たしていた。愛情にあふれ、高齢者を敬いながら暮らしていたといえる。

しかし、この美しい伝統は、多くの要素が影響し、日を追うごとに失われてきている。中でも見落とされがちなのは、時間の要因である。家族のための時間が十分に取れないと嘆く人が増えていることから分かるが、これにより、血の繋がった家族の関係が希薄となる。家族とは、社会の基盤であるにもかかわらず、社会が文明化すればするほど、人は家族から離れ個人化する傾向にあるようだ。

特に、高齢者たちは誰もいない家の中にて、子どもや孫から放置され、孤独を噛みしめている。一方、子どもや孫たちは、数え切れないほどの社会関係の中で、日々多忙を極め、自分の両親や祖父母を介護する時間が取れず、次第に会話がなくなっていき、考えていることや感じていること、仕事について共有しあうこともなくなり、高齢者と子どもや孫たちの間に距離が生まれてしまう。さらには、家族間関係性が希薄とな

り、高齢者たちは自分が家族の重荷であると感じ、自身の家族から見放され、わが身を嘆き、孤独とともに自分の世界に閉じこもってしまうのである。

我々は仏教の修行僧であり、何十年の間慈善活動に取り組み、多くの高齢者と接してきた。この活動を通じて、高齢者がひどい扱いを受け、身寄りがなくなってしまう、あるいは子どもや孫たちと通じ合うことができず、寂しい思いをしていることが分かった。そこで我々は、高齢者が喜びも悲しみもともに分かち合い、安心して暮らすことのできる、終の棲家が必要であると考えた。

現在、ホーチミン市や全国各地に身寄りのない高齢者を受け入れ、介護する仏教系の施設が数多く存在するが、それらは小規模で、社会のニーズに十分に対応できていない。これら仏教系の施設では、主に身寄りのない、あるいはホームレスの高齢者を受け入れ、病気を患ったときには医療面での支援をし、なくなったときには施設から葬式を出している。しかし、これだけでは不十分である。身寄りがなく、あるいはホームレスの高齢者だけではなく、子どもや孫がいても仕事で忙しく、会話をする十分な時間が取れない、介護ができないため、孤独な思いをしている高齢者の、精神的物質的生活にも目を向けていかなければならないのではないだろうか。こうした高齢者は非常に多く、家族のような雰囲気の中で、様々な思いを分かち合い、子どもや孫がそばにいて丁寧に介護され、魂のような

※ベトナム仏教中央教会

精神的レベルでの支援も必要としているのである。

これまで何年もの間、我々は高齢者を生活のあらゆる面で支援する介護施設を作ることができるかどうか、考えてきた。我々の考えでは、身寄りのない、あるいはホームレスの高齢者がともに暮らし、様々なことを共有しあうことで、楽しい生活を手にすることができるのではないか、と思っている。

さらにその一方で、子どもや孫がいても、彼らに会話を楽しみ、介護をする時間がない、という高齢者に対しても同じような支援できないかと考えている。そうすることで、高齢者はともに安心して生活し、物質的にも精神的にも十分な介護が受けられるだろう。

我々が現在考えているところでは、このような施設には、開放的で快適かつ十分に寛ぐことのできる部屋、保健室、講堂を設置したい。入居者は、身の回りや食事の介護、会話などをする介護者1名を含む4名1つのグループに分かれて生活する。また、生活に変化を

もたせるため、一人ひとりの健康状態に合わせて、毎日庭の掃除や植木の水遣り、花の世話などを分担して行う。特に、入居者はラジオを聴いたりテレビを見たりして娯楽を楽しみ、さらに彼らの精神生活を豊かにするための仏教の教えを聞いたり、自分自身で修行をしたりする。毎週土曜日・日曜日には子どもや孫が施設を訪れ、入居者と話したり介護したり、あるいは帰宅や遠方への外出ができるようにしたい。高齢者が自分自身の空間を持つことで、自分が子どもや孫に迷惑をかけていると感じる必要もなくなる。一方で、子どもや孫たちも、自分の親や祖父母が施設で楽しく暮らすことができ、自分たちも仕事をしながら時々は訪問できることで、安心感をもてるのである。

このような、社会と家族がともに参加して施設を作り、実践していくというのは、非常に有用な方向性を示しているのではないだろうか。

## On the Quiet and Happy Life of the Elderly

Thich Nu Hue Tu

Trung ương Giáo hội Phật giáo Việt Nam, Việt Nam

Through our charity activity, it became clear that the relation of the family had become weakened along with changing lifestyle, and a lot of the elderly were feeling alone. The facilities for the aged all over Vietnam are taking care of old people who have no relatives. However, there are also many old men who cannot be cared by their own families. But today, our country cannot meet such social needs, yet. I think we, families and community, should build a new type of institutions where plural old people and care workers live together, and families often visit there and go out together with their elder relatives.

Key words: welfare facilities for the old, social evolution, family